

10
82
802

批 論 之 評 定

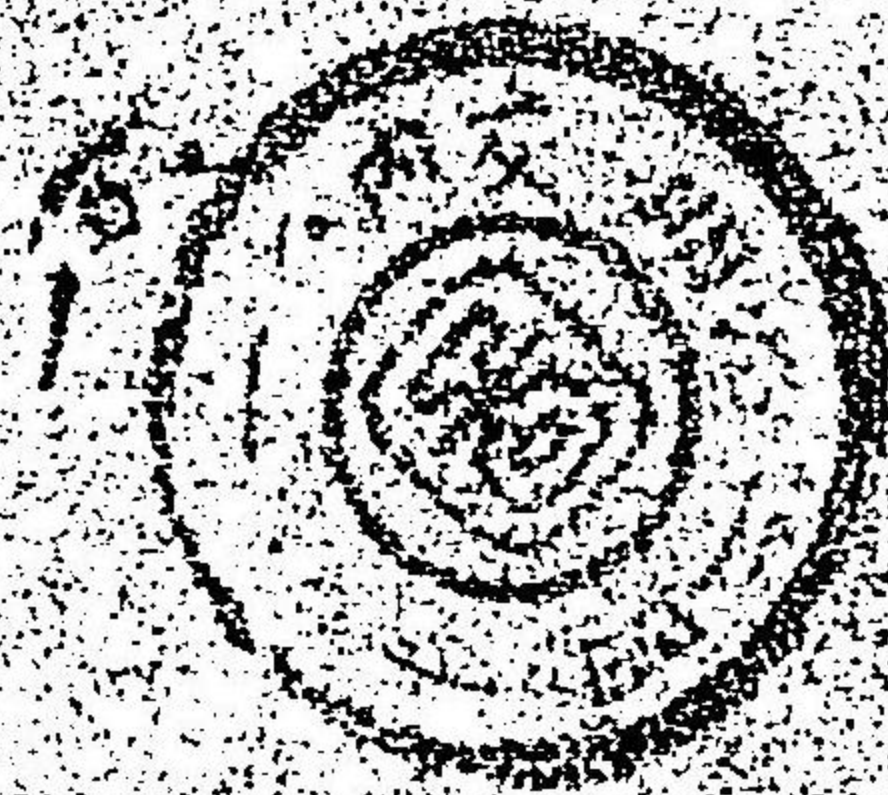
中 嶋 金 之 助 著

井 蛙 之 智 識

批論之評定

中嶋金之助著

井蛙之智識



緒言

今哉著書新誌之荐リニ起ルト雖且テ浮藻
 翻々愛ス可キ者ナキニ非ス復以テ高譚揚
 々喜可キ者ナキニ非ス然ルニ余ハ僅々繙
 書スルノ他ハ末々海外ヲ知ラス故ニ本書
 ヲ名ケテ井蛙ノ智識トセリ而メ本項十題
 ヲ撰顯シ依テ看官ノ心事ニ問フ所謂也
 然レ氏世人ハ著者ヲ之レ擧ニ效フタリト
 云フカ果シテ牛ト呼ビ馬ト呼バル、モ浮
 說巧ナル其人ニ任ス
 語ニ曰井蛙ハ大海ヲ知ラズト宜ナル哉余

目録

- 第一章 民權論者ノ燒餅喧嘩
- 第二章 徒ニ議會ヲ望ム勿レ
- 第三章 職ニ在テハ下ヲ想ヘ
- 第四章 天津通商ノ得策
- 第五章 學問ノ仕方
- 第六章 報國ノ主義
- 第七章 國民ハ二個ノ行務アリ
- 第八章 世ニ恐ルベキ一字アリ
- 第九章 國體ハ進歩ナカル可ラス
- 第十章 德義ノ相情如何

緒言

余哉著書新誌之荐リニ起ルト雖且ヲ浮藻
 顧々愛ス可キ者ナキニ非ス復以テ高譚揚
 々喜可キ者ナキニ非ス然ルニ余ハ僅々緜
 書スルノ他ハ未ダ海外ヲ知ラヌ故ニ本書
 ヲ名ケテ井蛙ノ智識トセリ而ソ本項十題
 ヲ撰顯シ依テ看官ノ心事ニ問フ所謂也
 然レ氏世人ハ著者ヲ之レ嚮ニ效フタリト
 云フ因果シテ牛ト呼ビ馬ト呼ハルハ毛浮
 説巧ナル其人ニ任ス
 語ニ曰井蛙ハ大海ヲ知ラヌ下宜ナル哉余

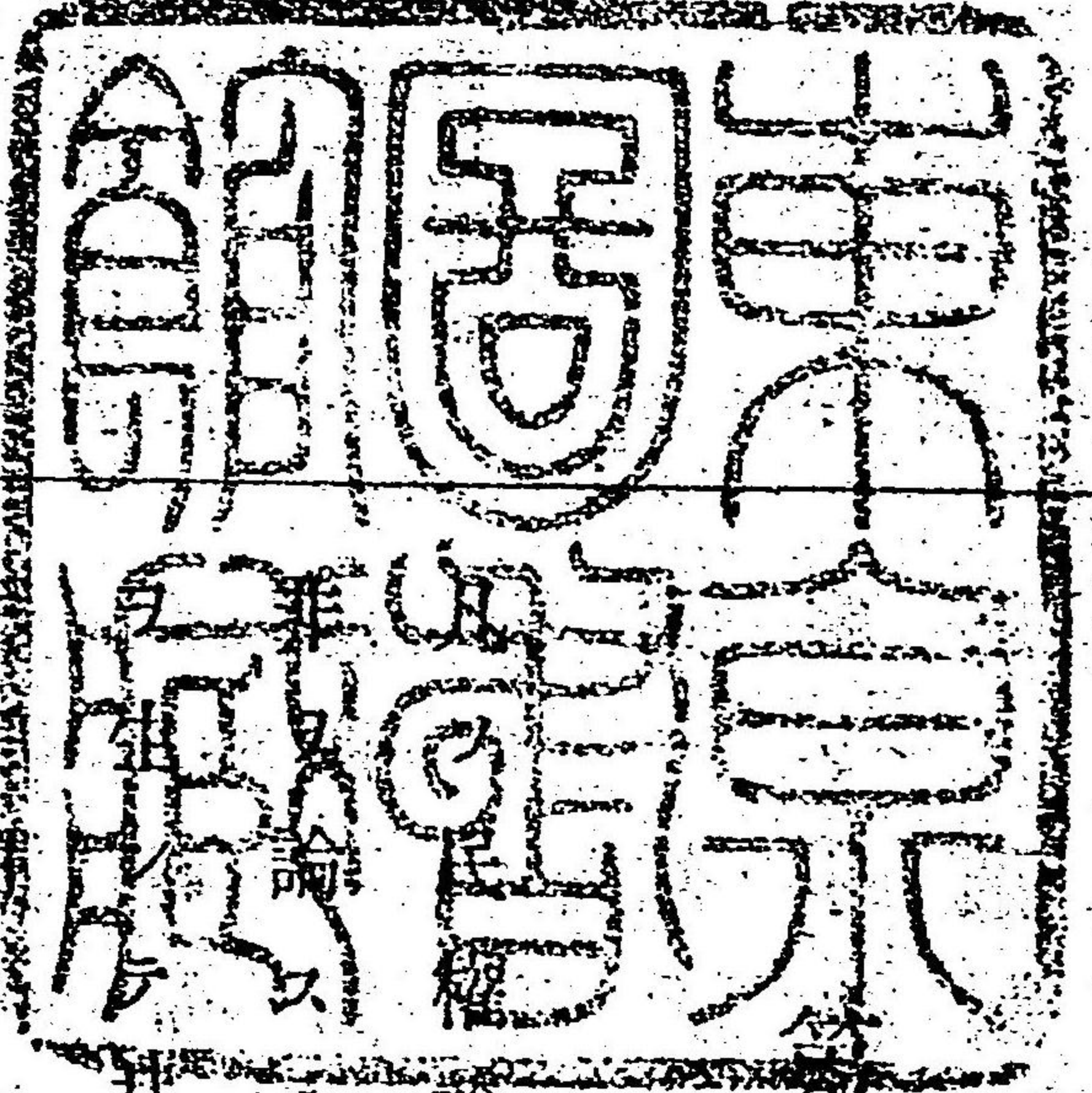
井蛙ナリトセヨ敢テ言ハス去リ迎セ余
 本書ノ發册ヲ要ムル高友茲ニ數士アリ
 然アルヲ顧ミレバ彼ノ余カ高友モ井蛙
 質アルヲ免レサル而巳ナラス亦之ヲ朗
 スル人モ亦何ト云ハシ既ニ海外ヲ知ル
 モ知テ再ビ海内ニ居ルハ到底井蛙世界
 云ハザルヲ得サルナリ冷スル人ハ豈遠慮
 ナク亦冷笑セテ余ハ恥ヂス而シテ又
 人ノ諂諛スルヲ好マズ由テ以テ聊チ本
 書ノ緒言ト爲ス

明治廿四年九月選

中島金之助識

井蛙之智識批論ノ評定

著者 中島金之助



壹章

民權論者ノ燒餅喧嘩

論者ハ唯ダ日本國民ト國民ト政治政体ノ是
 非ヲ論スルト則チ之ナリ而シテ是ニ參與スルノ黨派
 其民權論ヲ怪論ナリト認メテ然カモ其黨派
 在朝ハ人ト氣相投スル而已ナラス恐レ多クモ天
 皇陛下ノ安全ヲ主トシ則チ帝室ノ保護尊崇ヲ致スコ
 ソ之レ本源ノ真理ナリ其包括容納スル所ノ廣大ナル
 道理ニシテ一切ノ事物皆ナ之ニ基キ而シテ由テ出ル

御用黨ハ能ク
尻リノ始末ガ
出來兼子反對
黨ノ爲メニ今
息助セラル、
諸君見玉ヒ

烏ハ夫レマ子
ルト云ヒ吾國
モマ子ル故ニ
幼穉ナルト兒
戲ニ等シ

赤髻ヲ做フモ
日本人ハ白ツ
子ヲソクノ
外ハ皆ナ黒ツ
子ナリ矢張り
黒髻ハ黒髻ナ
リ

所ノモノヲ名ケテ是ヲ政黨主義ノ本源ト云フベキナ
リ
然ルニ往々見ル所ニ據レハ唯々皇室保護ヲ主義トシ
テ容易ニ皇室ノ名義ヲ徒ラニ用ヒ我ガ党ニ反對スル
モノハ皇室ニ反對スルモノナリト之レヲ公言シ之ヲ
新聞ニ書キ散ラスニ至ラバ他ノ党派モ亦決シテ之ヲ
許サス我コソハ皇室ヲ尊崇スルモノナレハ汝ノ党ハ
則チ然ラス云々トテ政治ノ論ハ之ヲ忘レテ一向ニ帝
室ヲ争ヒ其争ヒタルヤ擬察スルニ一家ノ子供ガ家政
上ノ議論ヨリシテ遂ニ本論ノ根旨ヲ忘レテ此父母ハ
我ガ(兄)父母ナリト云ヒ亦一方ニテハ否我(弟)父母ナリ
ト云ヒ眞實一家ノ子ニシテ生レシ所ノ父母ヲ争フニ

異ナラス是レヲ之無稽モ亦甚シト云ハサル可フス
願フニ政黨員ガ甚シク他黨ヲ嫉惡スルハ却テ自由ヲ
失フニ至ルヘシトハ嘗テ泰西談者ノ金言タリ然ルニ
今日政黨社會ノ情况ヲ觀察スルニ互ニ罵詈誶諍至ラ
サル所ナキニシモアラヌ之レ眞ニ恐ルヘキ憂フヘキ
ノ一大事ト云ハサルヲ得ン而シテ尙且戻テ其本源ヲ
尋レハ到底日本人ハ即チ日本人ニシテ日本ノ人民ヲ
治ルハ日本政府ノ責任ナリ假令其人民カ變性シタレ
ハトテ之レヲ捨テ、此人民ハ治ム可ラサルノ人民ナ
リトシテ放却スルノ理ハ豈又アラサル可キノ道理ニ
シテカヲ以テ壓制スルノ法ナシ人心ノ變化ハ測ル可
ラス治メ難キ民ヲ治メルコソ主治者ノ巧ナリト云フ

本像社會ニハ
政黨内額ナゾ
ノ及フ能スヒ
ヤ々々

可シ
之ニ由テ考フレハ政黨員ナルモノハ必ラス多數ヲ以
テ立ツベキニ非ス是レ蚍蜉ノ援ニシテ足ルトハ此義
ナリ決シテ蠶測社界ノ成シ得ヘキニ非ス矢鱈ニ無稽
人ノ奇テ以テ處スル所ニアラス只々衆望ヲ収ムルニ
足ル明人達士ノ人ヲシテ當局者ニ參政ヲ與ヒラレン
トヲ勤メヨ徒ニ譏謗暴濫ノ所策ヲ現ハス可キ歟豈謹
マサル可ラス嗚呼鑑ミサル可ラン哉

第貳章

徒ニ議會ヲ望ム勿レ

抑々議會ト稱ス可ヘモノ數個アリ之ヲ約言スレハ一

國會ガアレバ
亦々國會ト云
フ文字ヲ見ル
丈ケノ事カ矢
張權兵衛太郎
兵衛

家内ノ談事モ議會也又其伍組ノ相談モ議會ナリ稍蔓
テ一村一町ノ議會ヨリ亦進ンテ區郡府縣會ニ至テハ
猶通用ノ小門ノ如ク而國會ハ亦正面ノ大門ニシテ既
ニ小門ヲ開クハ常ナレニ進テ正面ノ大門ヲ開キシ
ハ(廿三年ノ秋期ヨリ廿四年ニ至ル結果)其正否ハ普ク
世人ノ知ラル、所ノ始末ナレニ而シテ余ハ今茲ニ口
ヲ開カントス
凡ソ議會ト稱スレハ其大小ヲ問ハスシテ到ル所東洋
問題ト云フカ將々公明ナル稱名ナレトモ其實際ニ
就テハ如何ナル得不得ノ沸キ出セン哉ヲ吾人ハ推テ
之ヲ知ルヘシ今我輩カ僅些ノ例ヲ舉ケン爰ニ一家内
ヲシテ些僅ノ歳入ニ方リ五人ノ家族カ宛カモ其日ノ

本旨ヲ知ザル
議會ヲ開カバ
所謂毛ヲ吹テ
傷ヲ求メルノ
道理ニシテ行
モ歸ルモ國民
ノ重荷……

縣下國家ノ代
議士ダラント
欲スルノ士ハ
井蛙ノ智識第
貳章ヲ記憶ス
ベシ

無益タル議會
ノ結果茲ニ至
テ讀者驚愕ス
ル所トナル

家業ヲ放却シテ遂ニ一家内ノ談事ヲ爲スニ至リタリ
(個ハ小會議彌々始マリ)而シテ終ニ家族協議ヲ致セシ
爲メニ空シク其日ヲ消滅セリ之ニ依テ是ヲ觀レハ原
案ハ僅々タル差引勘定ニ過ス然ルヲ各々五人カ費シ
タル費額ト原案トニ比スルト同時ニ反テ五人ノ家族
カ休業ヲ計算スレハ豈原案タル素事ヨリモ休業セシ
損害ノ方カ最多額ニ及ヘリトハ余カ茲ニ徒ニ議會ヲ
望ム勿レニ當ルヤ必セリ扱又此位ノ差引出納等ノ事
ハ其一家ノ政府タル叟ノ特ニ務ムベキハ眞ニ是良書
得策ナリト云ハサル可ラス如何トナレハ費スヘキ金
錢ヲ費セスシテ休ム可キ營業ヲ休マスシテ一人ノ母
カ三人ノ子供ヲ勵シテ儲ケタル利益ハ之レ誰ノ益ス

茲ニ至テ吾人
輿論ノ目按ヲ
違フ勿レ

世ノ中ノ仕事
ハ皆チ此ンナ
モノナリ

ル所ナルヤ決シテ叟ノ特リ益スルニアラス亦他人ノ
益ニアラスシテ結局三人ノ子息ニソナハル事ハ今喋
々ヲ要セスシテ明ナリ然レハ他家及ヒ他國ニ對シ被
加ノ害等ニ係ハルコトハ敢テ緩ニスヘキニハアラサレ
ハ其他ハ皆大底斯ノ如キナルモノ、如シ
前說ニハ一家族内ノ批論ナレハ之ヲ郡區府縣國會ニ
至ル迄斯ノ如キハ實ニ東洋問題タル議會ト云フモノ
、中ニハ勢ノ然ラシムル所ニシテ開ク既ニ某縣會議
員ハ凡四十名日當一名ニ付一圓ナル者カ地方稅ノ費
目三百圓ヲ増減スルコトニ付議論ヲ生シ其議案而已ヲ
討論スルニ十五日ヲ費シタリト云フ議員ノ日當ハ固
ヨリ民費ニシテ四十名ニ一圓ハ日ニ四十圓十五日間

黨ヲ味贈ノ議
會ハヨシモノ
カ噫々議員ガ
其職ニ在テ職
ヲ知ラザルニ
ハイヤハヤ

推セバ破ル、
歴スレバ挫ケ
ル此レ哲理ノ
致ス所ナリ

ニ六百圓ナリ六百圓ノ正金ヲ棄テ三百圓ノ費額ヲ議
スルハ十五日ノ日子モ亦之レ錢ナリ金錢ヲ投ケ打テ
精神ヲ勞シタル成績ハ唯能ク施政上ヲ難澁セシメタ
ル已而此等ノ難澁ノ類ハ唯郡區府縣會ノミニ限ラズ
全國ノ此所ニ生シ彼所ニ發シテ其煩ハシキニ堪ヘサ
ルノ場合ニ至ラン

然レモ政府ハ獨リ能ク之ニ耐ヘテ之ヲ忍バン歟如何
ナル事情ニ接スルモ風ニ柳ノ如ニシテ左右ニ是ヲ避
ケ耐忍ニ耐忍シテ尙能默止セン歟耐忍固ヨリ大切ナ
ルヲ知ルモ堪ヘ難キニ堪ルハ人情ノ能クセサル所ニ
シテ其結局ニ至ラハ政府ハ必ス武斷ノ策ニ出ルヲナ
ラン國家永遠ノ大計ヲ慮リ文ヲ以テ人ヲ治メントス

レバコソ辛苦ナレモ之ヲ武策ニ決スルトキハ其策甚
タ易シ蓋ソツ玉ヲ懷ニシテ闘ヘハコソ其玉ニ傷ケン
トヲ恐ル嗚呼夫レ我輩ガ徒ニ議會ヲ望ム勿レトハ此
事ナリ

第三章

職ニ在テハ下ヲ想ヘ

佛蘭西人云ヒル事アリ凡ソ邦國ト政府トヲ區別スル
ハ只其名ニ屬シテ其實アラサルガ如シ蓋シ政府ナキ
キハ邦國モ一空物ノミ政府有テ之ニ體ト命トヲ賦シ
而シ後チ之ヲシテ運轉活動セシムヘキナリ然レモ政府體ト
命トヲ以テ是ニ賦シタレバ必ラス人類ヲ蒐メテ其機

本論ハモ佛
人ガ能ク巴利
西ノ政堂ニ於
テ三寸ノ舌頭
ヲ以テ示メセ
シ辞ナレモ其

際ニハ殆ト慘
刻名狀スヘガ
ラザリシト云
フ

黨派論ハ何レ
ニセヨ先ヅ一
國ノ鞏固ナラ
ンコトヲ圖レ然
リ々々

憶々吾人ハ如

何貞信省ノ且
那大道葉ノ親
方ハ入頼以來
民權論ノ糸ガ
切レシハ如何
ン々々々
藩伐親爺靈泉
ヨリノ電信ガ
……

關ヲ搆出シ由テ以テ政ヲ爲スノ難キハ正ニ是レ此一
着ニアリ苟モ道ニ得サルハ純潔ナル邦國ヲシテ其
本有ノ美質ヲ汗損セシムルニ至ル是レ其豫メ邦國ト
政府トヲ區別スルヲ以テ急務トスル所以ナリト實ニ
金言ナリ
是ヲ約言スレハ凡ソ國家ヲ重ンスルノ人ハ豈職ホナ
ク下トナク思ハザル可ラス且テ又曰自由党トナク改
進保守トナク自治小派トナク切ニ相愛セサル可ラス
夫レ純潔トハ何ソヤ曰ク民ニ居テハ不羈獨立ノ聯想
ヲ帶ブルカ如ク椅子ニ座シテハ卑劣ノ金錢ニ汚レサ
ルノ念ヲ帶フルガ如キ是ナリ
或ハ曰ク人一度ヒ官ニ職シ一朝震應若シクハ誤テ免

官ノ二字ヲ頂戴スルヤ否哉翌日ヨリ翻テ政府ノ政敵
タル本色ヲ顯ハセリ人アルハ何ンゾヤ恐ラクハ人間
社會外ノ毒蛇ニ等シキ舉動ト云ハンカ是レ回顧スレ
ハ其人職ニ在リタルノキヲ舉ケン果シテ下ヲ壓シ亦
是ヲ汚蔑シ又敵視シ恰モコレ重罪犯ニ毛モ異ナルコ
ナシ係ル淺略ナル人カ非職ノ折柄民間ニ立ツテ一政
府ノ改革ヲ望ムナソト云フコトハ到底口ニ許シテ其實
効ハ夢ニダモ見ル能ハサルヤ必セリ故ニ政治家タラ
ント欲スルモノハ私有セス私愛ニ依テ官職ヲ授ケス
自己ノ爲メニ自ラ生レタルト思ハスシテ邦國ノ爲ニ
生ル、トスルコソ最モ一政治家トモ云フ可キナリ
然レモ游泳者ノ伎倆ニ於テ試ミルヲ得ヘシ無能無權

恐ラハ民權者
本論ノ正シキ
ヲ眼破シ玉ヒ

者ノ純潔ハ毫モ能クスルニ非スシテ誰人カ塵世ニ生
ル、哉政體民命タルモノアルヲ辨ヒサル可ラズ嗚々
余輩カ注目シテ止マザル所ヲ嘗テ又世人ニ問フ所謂
ナリ

第四章

大洋渡航ノ得策

大洋ヲ渡航ス
ルヨリ政海渡
航ノ安全ヲ祈
ル
アピラウンケ
ン

凡ソ大洋ニ航海シテ始メテ清水ノ貫フ可キヲ知ル者
ハ海水ハ潮ナルカ故ナリ洪水ノ災ニ遇テ始メテ清水
ノ貫フ可キヲ知ル者モ亦洪水ハ皆ナ濁水ナルカ故ナ
リ之ニ依テ今水變ノ有狀ヲ述ヘン
試ニ云ハン政府ハ船ナリ民ハ水ナリ水能ク舟ヲ浮ヘ

亦能ク舟ヲ覆スヲアリトハ嘗テ荀子ニ言ヒタリ亦曰
ク表正シキ時ハ則チ影正ク盤圓ナル時ハ則チ水圓ナ
リ孟方則チ水方ナリ又古人ガ詩ニ無情水任方圓ノ器ニ
不繫舟ハ隨テ去住風淮南子ニ曰夫レ善ク游ク者ハ溺シ
善ク騎ル者ハ墮ツ名以テ其所好ニ反自ラ爲シ禍トハ至言ナ
ラスヤ

著者曰ク前示スル所ハ摘々其例ヲ舉ケタルモノ
ニシテ又我輩ガ是ヲ以テ政海ノ否ナ大洋渡航ノ
策ト題シ聊サカ讀士ニ讓ル所ト爲ス

然レモ其能航海スルノ技術ニ至リテハ最モ揖ヲ執ル
ノ職夫レ賢ト拙トニアリト雖モ果シテ政海否大洋ノ
波濤時勢ノ氣運時ノ氣風トニ據ラサル可ラス動輒モ

志士ノ奮ヲ可
キハ本論ニア
リ游泳者ノ爲
ス能ハザル所



所ヲ讓ラレタシ亦夙ニ起テ政督ヲ讓ラル、ハ正ニ是
レ立憲ノ今日ニ方ル可キナリ
首ヲ垂レテ由テ之ヲ觀察セラレヨ
是レト政治ハ同一ニセサラン歟否世人ハ氣候ノ更移
ナルコトナシ其移リ易ク其需メ易キハ更表氣候ニシテ
政治ノ改革ト氣候ノ更移トハ毛モ異

世人ハ氣候ヲ
取リ違ヒ暑中
ニ綿衣ヲ着シ
寒中ニ單衣物
ヲ求メ正ニ是
レ天地黑白ノ
相違政治モ亦

中々先導ハ其
歩ヲ讓ル色ナ
シ
嗚呼舟大臣危
ヒ哉々々々



ハ怠チニ是レヲ需レモ政治ノ更移ヲ緩怠ニスルハ抑
モ又不可主義ノ至リナラスヤ
汎テ人ノ危急ノ職タルヤ先導揖執リノ役ナリ然レモ
能ク水ヲ游ク者ハ水デ果ル又曰擲ク名譽ヲ博スル者
ハ名譽ノ爲メニ果ルト云フト雖モ個ハ徒ラノ説ニシ
テ唯其時勢ト氣運波濤ノ執リ方ニヨリ空シク一朝ヲ
誤ルト恙ナフスルトニアリ茲ニ南方ノ暴風ヲ疾クモ
南方ト覺ラハ海上ノ安全是ニ過サレモ萬一南方ノ暴
風ヲ北方ト爲サバ其危急存亡タルヤ恰モ魚ノ釜中ニ
游フカ如ク眞ニ之レ恐ルベキ勢ナリト云ハサル可ラ
ス
嗚呼日專制タル白髮叟カ和舟ノ揖執迂遠ノ先導ヘハ

物ノ道理ナン
 ヲハド―デモ
 ヨイ
 一寸人ニコラ
 レテモ學者ヲ
 シク澤山マ―
 書物ヲ飾ルガ
 得策其内ニハ
 チツト分ル―
 ガアルダロフ
 凡ソ試験ニ掛
 リテハ受験者
 試験者ノ中ガ
 能ケレバ級第
 ハ安シト

其道具ノ名ヲ知ルノミニテ家ヲ建ル事ヲ知ラサル者
 ハ之ヲ大工ト云フ可ラス是正シク此譯ニテ文字ヲ讀
 ムトノミヲ知テ事物ノ道理ヲ辨ヘサル者ハ之ヲ學者
 ト云フ可ラス所謂齒牙ノ敗物取ルニ足ラス果シテ當
 世無用ノ長物トハ則チ此レナリ亦彼レ等ガ極意ヲ一
 寸申サバ僅々國ノ歴史位ヲ暗誦スルト云ヒヒ今日ニ
 當テ事物ノ相場ヲ知ラサル者ハ世ノ中ノ不必要ノ男
 ト云フヘシ且ツ又爰ニ云ヒルトアリ嘗テ學問ヲ修ム
 ル爲メ節角東京ヘ飛ビ出シ已レ自ラ受業ノ課目ヲ吹
 キ飛パンシテ曰ク余ハ泰西法律學又曰ク政治哲學經濟
 何専門何々學ヲ卒業云々ト云ヒ是レ正ニ抽ンスルモ
 ノハ九牛ノ一毛ニ足ラスシテ篇落以テ一定ハ皆ナ東

下宿拂ヲ中ヤ
 子ズイ拂ト底
 リ御困難トハ
 ヤハリ自業自
 得
 世ニ窃盜學校
 ハナケレヒ之
 ヲ卒業スル奴
 ノアルニハ困
 ルヨ矢張り御
 同感デ
 節角洋校シテ
 モ其効ノナイ
 ノハ
 矢張り素餐ト
 云フモ免レザ

京見物位ニ止リ且ツ一寸府下ノ地理ヲ暗承スル位而
 己ニテ彼レ終ニ費額ノ乏シキヨリ神經病ヲ惹起シタ
 リ或ハ夫レガ爲メニハヤケツパチヲ起シ放逐令狀ヲ
 蒙アリ或ハ其手際ヲ國元ノ兩親ト示シ合セ彼レ長男ハ
 一体肺病質アリ或ハ府下ハ香水惡シキ故(傻麻質)トカ
 又ハ心臟病トカ子息ノ痴愚ヲ六棚ヘ揚ゲ出京ノ顛末
 放揚ノ所置嗚夫レ如何センヤ彼レ等奴終ニハ一朝誤
 リテ窃盜學ナツテ卒業スル否ナ犯ス輩アルヲ免レサ
 ルモノアルハ何ツヤ是レツ之レ世人ノ共ニ歎スベキ
 ノ一最モ甚タシキノ欠点ナリト云ハサルベカラズ
 亦一步ヲ進メテ之ヲ云ヒハ多年金ヲ費シテ洋校シタ
 リト雖ヒ尙一個ノ活計ヲモナシ得サルモノハ夫レ學

ルカ
ノヲ々々連モ
生意氣者ノ奇
リ集リテハ結
構ナ御世ニハ
マツ六ヶ敷ヘ

ソノ文字ニ傷ケルヨリ外ナラサルナリ
噫呼淺學非才徒ニ糜粟ヲ糜シ自ラ誇リテ學者ト稱ス
ルモノニ於テヲヤ此ノ如キ淺陋無職ノ輩ニシテ常ニ
其資性ニ因テ其生ヲ送了セバ風俗果シテ醇良ニ趣キ
ヤ社會果シテ安泰ナルヘキカハ我輩ノ保証出來サル
所ナリ如之ナラス人其天賦ノ智慧其得タル所ノ一課
ノ學ヲ須ヒスシテ人ノ尊重愛慕スル所ノモノヲ賤視
額崩シテ絲毫モ顧惜スルコトナキニ至ル豈洪嘆ニ耐ユ
ヘケンヤ余ハ天下ノ諸士ニ向テ曰ク吾人若シ事ヲ爲
スニ方ラハ一課ノ國學ヲ用ヒ依テ要路ヲ修メナハ之
ニテ事足レリ徒ニ洋校學者ニ酷酈スヘガラス猥ニ國
態ヲ汚スコ勿レ

歐洲列國デハ
皆ナ試験ノ上
博士ノ免狀ヲ
氣取ト雖モ或
ル東洋ノ一小
國デハ無免狀
ノ輩ガ博士ヲ
氣取ルト云フ
併シ其人而已
他ハ活用セズ
ト云フ
腐敗學者ヨモ
一大概テ正氣
ニナレ

附言吾人若シ英學ノ博士ヲ氣取ラント欲セハ先
ツ英語獨案内ト云フ書ヲ求メ以テ僅々(リードル)
ノ片端位ヲ直譯シ而シテ郷里ニ戻ツタ曉ハ知己
朋友ニ向テ其半暗ヲ一寸自慢風ニ吹キ揚ケレハ
世人ハ皆ナ其人ヲ指シテ英學博士ト呼フ是レ誠
ニ氣骨ノ折レヌ一寸得策テス先生方ノ御參考迄
ニ申上置キ升
然レモ余ハ少シク首ヲ垂レテ眞ニ端緒ヲ開カントス
曰ク我日本帝國ハ今學藝ヲ隆盛ナラシメ普ク迥然群
ヲ出ツルト云フモ只ナラスシテ悉心刻苦是レ幼ニシ
テハ書生トナリ老テハ非役官吏トナリ何レモ皆學舍
ノ間ニ轟聲アリシモノナレハ就中都每落第生意氣否

一度ビ諫メテ
用ヒザル人ニ
ハ再ビ諫メル
及バスト雖モ
兎モ角モ危険
ノ場合ニ至ラ
バ百度モ千度
モ諫ムベシ
日本ハ東洋第
一ノ學課國ナ
リ僅々師範ヘ
デモ一寸ノゾ
キデモスレバ
最早大學デモ
卒業シタ様ナ
御講釋ガデキ

狂氣書生卒業半途ニ至リ家事ノ御都合故國元へ御引
取ノ半熟書生是等ノ統計表ヲ聲ニ實ニ莫大ナルモノ
ナリト云フ亦彼等ハ常ニ就職ヲテハナク親族兄弟ノ
宅へ跪込ニ無斷ノ食客素餐ト云フ輩アルハ往々見ル
所ノ殖倍セシ傾ナキニアラス哉亦此他ニ追々卒業濟
ノ俄學者等ハ一區一町村ニ於テ戸籍ノ扱ニモ忙ハシ
キ次第ナレトモ其實際ニ當ル者トテハ稀ニシテ他ハ皆
ナ持合ノ學藝ニ狂フ否々學藝ヲ妄リニ陋布スルニ過
キス斯ノ如キ人ニ對シ吾人ハ何ト其評ヲ降スカ願フ
ニ之レ其モノヲ學者先生ト崇メ尊ムハ些ト怪シキコ
ナレトモ兎モ角モ多少校窓ヘノゾキタル人ナレハ矢張
學者ト稱シ奉ルコソ至極御直ウチカ知ラン

ル嗚呼イライ
々々々

歐羅巴ノ一原
素タル羅馬ハ
夫レガ爲メ終
ニ一國ヲ荒シ
今ニ至ル迄恢
復手段ニ乏シ

此御直打ナル説ニ依テ考フレハ日本ハ學者間ノ狂居
所ト成リ居ルト云フモ敢テ憚ラザルナリト去ル某氏
ノ辭タリ
既ニシテ娥々タル奎運循環ニ趣クト云フモ吾人々類
ハ決テ娥シトスルニアラス如何トナレハ已ニ文學技
藝ノ盛ニセシメシヨリ終ニ彼ノ羅馬ガ壊敗ヲ萌セシ
ニアラスヤ然ルニ羅馬國ハ凡ソ文明ノ長原トモ稱ス
ル國デア有リナガラ斯ク落ち果テタル一原素ヲ擧クレ
ハ學問ヲ以テ國ノ驕トナリ積極實業收入的等ハ暫ク
先ツ上流者ノ致ス所ニアラスト云ヒ傳へ一般ノ人民
貴賤ノ差別ナク猥リニ學藝ヲ身ニ致セシ故結局一國
ノ産業衰頽ヲ招キシナリトハ余カ喋スル而已ナラス

流行物好キノ
日本人ハ只時
ノ事而已ヲ見
テヤレ外國ヤ
レ歐州ト云ヒ
ヒ其跡ハ知ラ
ス
然リクテ讀者
モ喝采デアロ

在氣學者ヨ本
論ニ及サバ隨
分奮テ日本島
ヲ富シ玉ヒ其
上著者ハ御挨
授ニ及ブ
吾人先ス見玉
ヒ狂ヒ騷ノ世
ノ中ヨヒヤ々
々々

一 班其國ノ輿論ニ歸スル所ナリ
而シテ亦吾人ニ一言ヲ質ス曰ク我日本島ヲシテ如何
程學藝ヲ盛ンナラシムルト雖ヒ其學藝ヲ以テ充分海
外ヘ方テ代航交々日本民族ヲ布キ以テ一門ノ學藝ヲ
萌キ依テ自國ヲ富益セシモノ未タ聲ガヌ如何ニ研究
鍊磨スルモ已レガ國ノ學者位ノ事テハ底リ井蛙世界
ヲ免レサル所ナリ且テ各國(英、埃、俄、佛、亞)等テハ自國ノ
學藝ヲ以テ學問ノ商法學藝ヲ賣テ自國ヲ富マサント
謀ラル、ヲ知ラヌシテ誰人ガ能ク是ニ恍迷ス噫々時
世トハ云ヒナカラ感フルノ甚タシキニ耐エンヤ
是レ將々吾人ハ活眼ヲ開ヒテ滿天下ヲ見ヨ恐ラクハ
學者ノ取々天下ナシ今我輩ノ贅言ニアラス吾人若シ

此說ヲ疑ハ、今ヨリ一二世ヲ送リテ之ヲ見ヘシ而シ
テ漸々其世ニ至ラハ現在ノ大和民族ハ果シテ何ト化
スル歟未來ノ世ヲ敢テ臆難スルニハアラヌシテ往昔
ヨリ今日ニ進歩セシ域ヲ察スルニ今後一二世ヲ超越
シタル曉ニハ吾人ハ夫レ眞ニ夢ノ醒メタル心地コソ
セン歟

第六章

報國ノ大義

外國ニ對シテ我國ヲ守ランニハ剛毅ノ心ナカル可カ
ラヌ強ノ膽モナカル可ラス耐忍モセサル可ラス而シ
テ是等ノ思想ヲ發萌スル手立ナカル可ラス思想發萌

今日ハ妙ナ時
節々貸借上ニ
迄獨立ガ有テ
返サ、ルモ獨
立其取ラサル
モ獨立此獨立
ハ些下妙ナ咄
シ

ノ手立トハ何ンゾ曰ク獨立ノ氣風即チ之ナリ然レモ
世人ヲシテ此獨立ノ文字ヲ吐許セハ直チニ粗暴ナル
運動ニ及フカト思ヒモ決シテ然ラス凡ソ獨立ノ氣風
トハ其國ヲシテ自分ノ身ノ上ニ引受ケ以テ之レヲ報
エルト則チ之ナリ而シテ人タルノ本分ヲ盡サ、ル可
ラス即チ英人ハ其國ヲ以テ報ヒ日本人ハ全國ヲ以テ
之ニ報エ其本國ノ土地ハ他國人ノ土地ニアラス我國
人ノ土地ナレハ本國ノ爲メニハ自家ヲ想フガ如ク其
身相應ニ勤メヲ賣ラザル可ラス然リ而レモ交際ノ爲
メニ國名ヲ賣ルハ惡キニアラサレモ今聞ク所ニ據レ
ハ天地間ノ中ニハ國ヲ賣ルト云フモ無ニアラスト吾
ハハ之ヲ知ラザルヲ得ンヤ某國人曰ク凡ソ國ヲ賣ル

讀者ヨ今日本
國ノ狀態之レ
ニ擬セン歎チ
ト怪ヤシキ

積弊血雨ハ野
蠻ノ戰爭今ハ
遠謀商法的ニ
依テ其國ノ盛
衰ガ出來ル則

ト云ヒハ直チニ土地ヲ賣ル様ニ思ヒモ決シテ然ラス
抑々某國ガ貧ヲ招キシ所謂ノ大ナルヲ舉クレハ其國
ノ財寶ヲ他國ニ吸収サレ依テ自然ニ其國ノ衰ヘタル
ハ取モ直サス國ヲ少々ツ、切賣同様ナリト云ハサル
可ラスト某人ノ語ル所ナリ而シテ我輩カ之レニ依テ
尙考フル所アリ以テ吾人ニ説ク嗚々夫レ兎角海外ノ
人々ハ謀計鋭クシテ巧ニ人ヲ係ル事ニ上手ナリ其巧
ニ何レニアル歟ト云フニ遠謀商法的之レナリ
我國人ハ此遠謀ノ策ニ乘ラサル人ナキニアラス由テ
此策ヲ應用スルノ人ハ誰ナルヤト問フニ農民ニアラ
ス工民ニアラス等外官吏ニアラスシテ前章ニ示シタ
ル舟導者等ノ人々ナリ而シテ此等ノ人々ニ限りタル

千本論ナリ
御味方大臣ハ
其事ノ前後ヲ
如何ト爲スヤ

讀者此本論ハ
常ニ篤願セヨ
奮フベシ勤ム
ベシ

所策ナル歟ト云フニ又々投機組ノ分子ガ注入シテ由
テ以テ僅ニ東洋ノ一孤島ヲ鈍澁セシムルナリト余ハ
斷言シテ止マヌ尙ヲモ舟導者ハ營業上貿易ヲ盛ンナ
ラシメントテ底リハ國內奢侈ノ風ヲ増生シ費途百出
資本ノ缺乏ニ至ラハ外人ハ欣然トシテ狹智ヲ以テ忽
チ廟議ヲ籠絡スルニ至ルハ結局勢ノ免レサル所ナリ
是ニ依テ觀レハ國ノ政ヲ爲ス者ハ政府ニテ其支配ヲ
受ル者ハ人民ナレトモ個ハ唯々便利ノ爲メ双方談示ノ
上廟堂ニ雇人ヲ置事而已ナレトモ若シ萬一ニモ一國全
体ノ面目ニ抱ハル事ニ至テハ人民ノ職分トシテ政府
而已ニ國ヲ預ケ置キ傍ヨリ之ヲ見物シ居ルハ豈報國
ノ大義ニ何ント答ヘン

第七章

國民ハ二個ノ行務アリ

人ハ顔ト心ト
違フカラ困ル
噫々吾人ヨ必
ラス不經濟專
門ヲ卒業スル
及ハヌ

凡ソ國民タルモノハ一國ノ身ニシテ二個ノ勤メアリ
其一ハ政府ノ下ニ立ツ其二ハ國民申シ合セテ一國ト
名ツタル會社ヲ結ヒ社ノ法ヲ立テ、是ヲ施行スルヲ
即チ主人ナリ
而シテ之ヲ細別スレハ茲ニ百人ノ人アリ何ントカ商
社ヲ結ヒ社中相談ノ上ニテ法ヲ立テ之ヲ施行フ所
ヲ見レハ百人ノ人ハ其社ノ主人ナリ既ニシテ此法ヲ
定メテ社中ノ人何レモ之ニ從ヒ其違ハサルヲ見レハ
百人ノ人ハ社ノ客ナリ故ニ一國ハ猶商社ノ如ク人民
ハ依テ以テ主客ニ様ノ職ヲ務ムヘキナリ然リト雖モ

吾國ノ習慣ハ
壹個人トシテ
壹個人ノ資格
ヲ爲ス能ハサ
ルハ何ンノ由
縁ゾ

政府ハ親ナリ
父ナリ母ナリ
蓋ソ孝ヲ爲サ
ント欲セバ疾

ク父母ノ本ヲ
盡スベシ

内額大臣タル
支配人ハ己ニ
アラヌ九十人
ノ代人ナリ
然レモ三百代
人ニハ非ヌヤ

客ノ身分ヲ以テ論スレバ一國ノ人民ハ國法ヲ重シ
必スヤ人間同等ノ權義アリ及ヒ同等ノ旨意ヲ忘ル可
ラス故ニ他人ノ權義ヲ妨ク可ラス我ノ樂ム所ノモノ
ハ他人ノ亦之ヲ樂ムガ故ニ他人ノ樂ヲ奪テ我ガ樂ヲ
増ス可ラス正シク國法ヲ守リテ彼我同等ノ大義ニ從
フ可シ
亦以テ國ノ政体ニ由チ定リシ法ハ假令愚ナルモ或ハ
不便ナルモ妄リニ之レヲ破ルノ理ナシ今其大畧ヲ左
ニ述ヘシ
抑モ政府ナル者ヲ設ケテ之ニ國政ヲ任セ吾人々類ノ
名代トシテ仕事ヲ取扱ハシム可シト約束ト定メタル
故ニ人民ハ家主ナリ根本ナリ政府ハ吾人ノ代人ナリ

亦右ノ商社タリ商社ノ人數ハ譬ヘハ百人トス其内ヨ
リ撰ハレタル十人ノ支配人ハ政府ニテ殘ル九十人ノ
社中ハ人民ナルガ如シ此九十人ノ社中ハ自分ニテ事
務ヲ取扱フナシト雖モ己レガ代人ト定メタル十人
ノ者ヘ仕事ヲ任セタルカ故ニ己レノ身分ヲ尋ヌレバ
之ヲ是レ元商社ノ主人ト云フヘシ彼ノ亦支配人ハ現
在ノ仕事ヲ扱フト云フト雖モ社中ヨリ頼ヲ受ケシモ
ノナレバ其意ニ從テ爲スヘシト約束シタルモノナレ
バ其實ハ私ニアラス即チ九十人ノ指揮ニ由ルモノナ
リ
故ニ一國ノ政務トテモ其通り國法不正不便ナリト雖
モ其不正不便ヲ口實ニ設ケテ之ヲ破ルノ理ナシ萬一

蛙民徒ヲニ倚
テ跋扈スル勿
レ聊サカ控テ
注意セヨ

事實ニ於テ不正不便ノ箇條アラバ一國ノ支配人タル
政府ニ説キ勤メテ靜カニ其法ヲ改革セシム可シ若シ
當局者ガ其説ニ從ハスンバ且ツ仁慈ヲ盡シ尙ホ耐忍
シテ好時節ヲ待チ賢コクモ憲法ニ倚テ以テ企圖スル
コソ日本親民ノ一大義務ナリ嗚呼夫レ必ラス速成ヲ
望ムハ正ニ顛躓ヲ來スノ策ナリ今ヨリ吾輩ハ世ノ君
士ニ一言ス多年節風沐雨スルモ恐ラクハ水泡ニ歸ス
ル勿レ其レカメヨ君子

第八章

世ニ恐ル可キ一字アリ

坤輿上ニ一物アリ靜ニ之ヲ思ヘハ一時一刻タリト安

人生ハ管メ口
ヨリ尻ニ息ヲ
通スルニ止ラ
バ何ゾ人ハ此
世ノ器械的而
己テハ能ク物
事ガ……

心シテ過ス可ラヌ立テモ居ラレス寢テモ居ラレス百
憂ハ左右ニ來リ萬害ハ前後ヲ纏ヒ恰モ一身ハ百鬼ニ
圍マレテ進退爰ニ容ルガ如シ
嗚々世ニ生ヲ得レバ何ノ爲メカ將々何ノ因果ゾ一時
モ此危懼ヲ忘ル、イナク實ニ此世ニ生ヲ全フスルヲ
好マサルナリ
然レモ人トシテ斯ノ如クニ此世ニ在ルヲ拒絕スルモ
到底詮ナキコトナレモ先ヅ此一物ナルモノハ如何ナル
物ナルヤヲ探究シテ自ラ世ヲ避ケシメント欲スルナ
リ
日ク一物トハ何ゾヤ天災カ地妖カ蟻々雲ニ聳ユル大
厦堅牢拔ク可ラサルノ樓閣ト雖モ倏忽ニ之ヲ吹キ飛

我が身外ヨリ
發スル害ハ憂
フルニ足ラズ

パシ颯風カ蒼洪水カ否山岳震動山頂噴火シ大地震カ
否々戦争流行病等ハ老幼壯夫ノ差別ナク幾百萬ノ生
靈ヲ斃盡スル殆ド慘狀ヌ可ラサルノ災厄カ否々決シ
テ然ラズ是等ノ一物ハ常ニ人間社會ヲ彷徨シテ吾人
々類ノ生靈ヲ妨害スルモノ則チ是ナリ蓋シ最モ奇最
モ怪慎ニ悲シム可ク恐ル可キハ勿論或ハ時トシテハ
笑フ可ク怒ル可ク又憂フ可キモノアリ憐ム可クモア
リ而シテ其今日ニ到ル迄彼レニ轉シ是レニ移リ妨害
ヲ恣マ、ニスルハ祖先ノ既ニ經歷セシ所亦吾輩ノ親
シク實見セシ所後世子孫ノ將サニ遭遇ス可キ所ナリ
汝チ怪物ヨ汝チ此世ニ殘シテ逝矣汝チノ爲メニ生注
ヲ誤リ一身ヲ害サル、モノ幾百萬人ナルヲ知ラス今

人ハ必ラヌ人
ヲ答ム可ラス
人ヲ答メント
欲セバ先ツ自
分ヲ答ム可シ

此一物ニ名ヲ下ザントス唯々單字ナル愚ノ一字ヲ以
テスルヨリ他アルヘカラズ而シテ實ニ此愚ナルモノ
程世ニ恐ル可キ悲シム可ク怒ルベク憐レムベク歎ク
ベク憂フベキモノ實ニ恐ラタハ世ニ非ラサルナリ茲
ニ至テ吾人ハ果シテ心事ニ適論セシヤ若シ吾輩ノ説
トトモヲ爲サバ此レヨリ吾人々類ヲシテ一層ノ精勵
ヲ加ヘ渾テ學ブノ術ニ怠ルヲ勿レ而リ然レモ爰ニ學
ブノ文字タルヤ徒ラニ書籍ヲ以テ叩々生意氣ノ風俗
ニ倣フニアラヌ并ハ農工、製造的、殖産、積極、開墾、培養等
汎テ實地ニ就テ事ヲ舉ケ其巧ヲ觀ルヲ則チ之レナリ
人或ハ云ハン吾人ハ能ク何事ニモ兎角實地々々ト并
モ實地ヲシク日ニ許セモ如何セン怪物ノ一字ニ圍ハ

本論コソハ履
行スルノ餘ナ
リ

此モ人ナキニシモアラス此一言ハ正シク事實ニシ
テ聊サカ著者が再言スル所ナリ
或ハ云ク人ハ兎角少々ナリ亦聊カナリト云フト雖モ
終ニハ此聊サカト云フ物が累ナリタル後ハ高大ナリ
ト云フノ外ナシ故ニ決シテ之ヲ緩ニセズ事萬般ノ道
理ヲ明ニシテ以テ一厘一毛タリモ此愚ナル怪物ニ浸
入サル、勿レ油斷スル勿レ依テ今ヨリ此怪物ヲ退
治拒絶セントスルニハ唯實地ニ就テ勉強ノ一事ニ在
リ苟ニモ彼ノ一字ヲ以テ一身ニ昵近セシムルコト勿レ
嗚呼々々

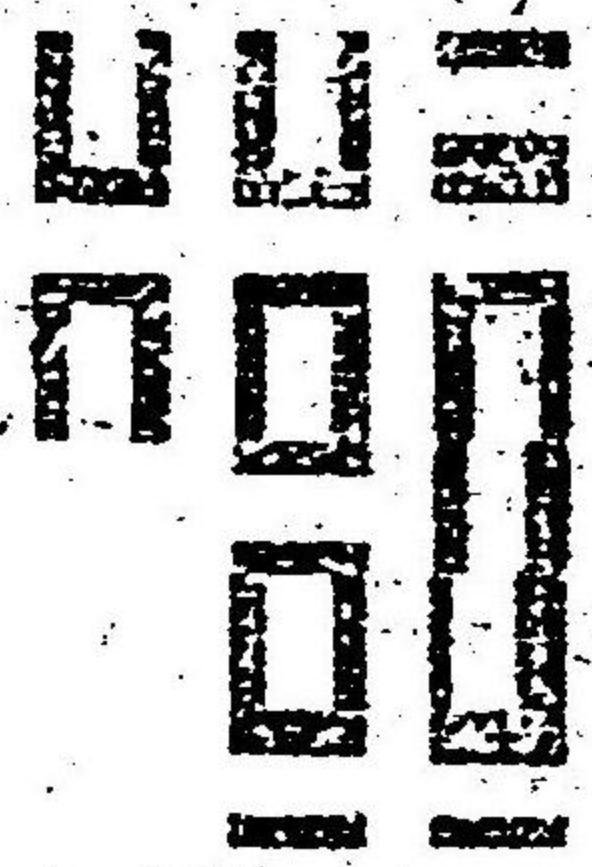
第九章

國醫ハ程度ナカル可ラス

吾國ノ元祿殆
ト衰ヘリ是レ
ヲ養生セサル
ヘカラヌ

夫レ劑生學者
ノ奮發スベキ
ト是ナリ

醫師醫學者ハ唯々人体ノ病ヒ而已ヲ診察ヌヘキモノ
ニアラス人体ヲ治療スルニモ宜シク其程度策ヲ施サ
ズル可ラス而リ然レモ人体ノ治療ニ至テハ壯氣盛
ナレバ如何様ノ大症ナリト雖モ治セサルト云フコト
シ壯氣墮ツレバ之レ斃盡ノ基ナリトハ正ニ之レ歐洲
大醫家辭バナリ故ニ上醫ハ必ラス被治療者ニ向ヒ想
氣壯ヲカラントシテ施サバ正ニ一滴千金ノ寶藥ヨリノ
術亦大ナリトス醫家中ノ最モ秘術トスル所タリ故ニ
政治家ハ其國ガ食血病症ニ罹リテ充分壯氣ヲ施シ
倚テ以テ相當ノ藥劑ヲ調合セザルベカラス



故ニ天下安寧ヲ維持スルノ一事ニ
 於テモ之ニ壯氣ヲ施サザル可ラス
 凡ソ社會ノ形勢ヲ察スルニ異ナラスシテ症ノ發表ス
 ル所ハ必スシモ病ノ存在スル所ニ非マシテ頭痛ノ症
 ハ頭腦ニ發表スレモ病ノ位スル所ハ胃ノ腑ナルガ如
 シ其交感ノ病理ヲ診斷スルコト困難ナルノミ政府ハ即
 チ一國ノ醫師ナリ必ス診斷治療ノ策之レ錦美ナラン
 歟患者モ底リ癩持ガ持病トナリ一生涯ノ借持ト成ル
 様ナ意氣地ノ無キコトハ眞平御免ヲ蒙リタシ病ノ借タ
 ハ商權專賣ヤ登録ナゾノ様ナ名譽ト違ヒ疾ク治療致
 シタキ吾人ハ如何ガ
 畢竟今日ノ形勢ニ立チ至リシハ時世ノ氣運ナリト云
 フト雖モ元ト其氣運ノ生シタルハ天然ニ非スシテ人

恐ラク憂國ノ
 人アラバ難症
 ノ時ニ至テ傍
 觀スルノ謂レ
 アリシ歟

平素ノ持病借
 持チモ治療策
 ナキニアラス
 ト是レ宜ヤル
 哉

於テモ之ニ壯氣ヲ施サザル可ラス
 凡ソ社會ノ形勢ヲ察スルニ異ナラスシテ症ノ發表ス
 ル所ハ必スシモ病ノ存在スル所ニ非マシテ頭痛ノ症
 ハ頭腦ニ發表スレモ病ノ位スル所ハ胃ノ腑ナルガ如
 シ其交感ノ病理ヲ診斷スルコト困難ナルノミ政府ハ即
 チ一國ノ醫師ナリ必ス診斷治療ノ策之レ錦美ナラン
 歟患者モ底リ癩持ガ持病トナリ一生涯ノ借持ト成ル
 様ナ意氣地ノ無キコトハ眞平御免ヲ蒙リタシ病ノ借タ
 ハ商權專賣ヤ登録ナゾノ様ナ名譽ト違ヒ疾ク治療致
 シタキ吾人ハ如何ガ
 畢竟今日ノ形勢ニ立チ至リシハ時世ノ氣運ナリト云
 フト雖モ元ト其氣運ノ生シタルハ天然ニ非スシテ人

古シ千乘國大
醫ニ耆婆ト云
フ人アリ國ノ
人体ヲ救ヒシ
ト云ヒ此今起
テ國症ヲ救フ
モノナキ歟

ノ作りタル氣運ナレハ之ヲ挽回スルニモ亦人カヲ以
テスベキハ當然ノ事ニテ徹頭徹尾人ノ力ニハ叶ヒ難
シト云フ可キ程ニアラス誰レカ今日ノ氣運ニ養生學
ヲ用ヒサラシカ鳴々夫レ治療セサル可ラス夫レ吾輩
ハ諸子ガ勤メテ其治療策ノ施サル、ヲコソ樂ンデ止
マサルナリ

第十章

德義ノ相情如何

抑々德義ハ情愛ノ在ル處ニ行ハレテ規則ノ内ニ行ハ
ル可ラス又規則ノ功能ヲ見レハ能ク情愛ノ事ヲ成ス
ト雖モ其行ハル、所ノ形ハ則チ然ラスシテ規則ト德

敢テ法律規則
ニ奇ラザルモ
德義ニ依テ事
ヲ所セバ寧ロ
法律ニ奇ルモ
ナトス

義トハ正シク相反シテ二ツナガラ相容レサルモ、
如シ又規則ノ内ニ區別アリテ事物ノ順序ヲ整理スル
爲メノ規則ト人ノ惡ヲ防ク爲メノ規則トノ二様アリ
甲ノ規則ヲ犯スハ人ノ過チナリ乙ノ規則ヲ犯スハ人
ノ惡心ナリ今爰ニ論スル所ノ現則ハ人ノ惡ヲ防ク爲
メノ規則ヲ指シテ云フモノナレハ讀者ハ必ス之ヲ誤
ル可ラス譬ヘハ家族ノ事ヲ整理スル爲メニ家内ノ者
ハ朝六時ニ起テ夜ノ十時ニハ房ニ入ルベシト規則ヲ
立ルコアルト雖モ家内ノ惡念ヲ防ク爲メニ非ス此規
則ヲ犯セバトテ罪人ト云フベラス唯々一家内ノ便利
ノ爲メニ申合セテ定メタル規則ニテ書面ヲ認ルニモ
及ハヌ家内ノ心ヲ以テ行ハル、モノナリ此外眞實陸

物ノ道理事ノ
順序ハ十把壹
總ニ奇ル可ラ
ス

シキ親族朋友ノ間ニ金ヲ貸借スルモ此類ナリ去レト
今擴ク世間ニ行ハル、証文約條券亦ハ政府ノ法律各
國ノ條約等ヲ見ルニ或ハ行政司法等ノ別アリ事物ノ
順序ヲ整理スル爲メノ規則モ少ナカラズト雖ヒ一般
ニ其所用如何ヲ尋レバ悉皆惡ヲ防クノ器械ト云ハサ
ルヲ得ズ總テ規則書ノ趣旨ハ利害ヲ表裏ニ並ベテ吾
ヒニ示シタル其人ノ私心ヲ以テ之ヲ撰ムノ策ナリ譬
ヘバ一千圓ノ金ヲ暗取スレバ懲役十年ト云ヒ某ノ約
定ヲ千日延期スレバ要償百圓ト云フガ如キハ兩者爰
ニ擬論ヲ批セン

現在塵世ハ本
論ニ適ルヤ否
ヤ

勤メテ愛慕ス
ベキハ德義ノ
相情茲ニアリ

ムルノ趣向ナレバ德義ノ精神ハ毫モ存スルコトナク其
状態タルヤ恰モ飢々タル犬ニ食物ヲ示シ傍ラニ棒ヲ
フリ揚ケ喰ハシ打タントテ威ヲ示スモノ、如シ其形
ノミヲ以テハ決テ之ヲ情愛ノ事ト云フベカラス
斯ノ如ク論シ來レハ德義ノ行ハル、所ト規則ノ行ハ
ル、所トニ就テ聯サカ想ヲ示サン

茲ニ甲乙二人アリ倚テ金錢ノ貸借スル事アラシ二人
相互ニ親愛シテ之ヲ貸スモ德トセズ借リテ返サ、ル
モ怨ミトセズ殆ト私有ノ別ナキハ情愛ノ深キモノニ
シテ其交情ハ全ク德義ニ基クモノナリ或ハ返済ノ期
限ト利足ノ割合トヲ定メ唯備忘ノ爲メニ之ヲ紙ニ記
シテ此書附ヲ貸主ニ渡シ置クモ其交情未タ德義ノ分

本論ノ極鳴呼
夫レ如何シ

果タシテ然ル
ヤ答テ辞ナシ

界ヲ失フタルモノニアラサルナリ
然レモ此書附ニ印ヲ押シ証券印紙ヲ帖シ或ハ請人ヲ
立テ公證役場ノ保證ヲ需メ或ハ質物ヲ取ルニ至テハ
既ニ德義ノ分界ヲ脱シ双方共ニ唯々規則ニ依頼シテ
相俱ニ接スルノミ此貸借ニ就テハ借主ノ正不正ヲ信
シ難キガ故ニ之ヲ不正者ト認メ返金セサレバ請人ニ
係リ尙ホモ返サレハ政府ニ訴テ裁判ヲ被リ尙モ一
錢一厘モ不足スル時ハ公權ノ剝奪ヲ受ルカ亦々質物
ヲ取押ヘントスル等ノイハ棒ヲ振り揚ゲテ犬ヲ威ス
ルモノニ毛モ異ナルヲナシ
故ニ規則ニ依頼シテ事物ヲ整スル所ニハ德義ノ形狀
ハ毫モ存スルコアル可ラス亦政府ト人民ト賣主ト買

富ノ權ハ強シ
貧シキモノハ
富ノ劔ニ刺シ
伏セラル、

文明世界ハ恰
モ三毒ノ劔ヲ
磨クガ如ク恐
ル可キ慎ム可
キハ文明ノ今
日

主ト或ハ錢ヲ取テ勤メタル人ト勤メラル、人トノ間
ニテモ規則而已ヲ限リ由テ相會スルモノハ之ヲ之レ
情愛タル德義ノ交際ト云フベラス
斯ノ如キ無情ノ規則ニ依頼シテ僅ニ事物ノ順序ヲ保
チ惡念内ニ充滿スレモ規則ニ制セラレテ之ヲ事跡ニ
顯ハサズ規則ノ許ス所ノ極界ニ至テハ乃チ止リ恰モ
意氣揚々トシテ満面ニハ德義ノ口辨ヲ吐エテ山ヲ築
キ内心ノ如何ナルヲ問ハゞ實以テ恐ロシキ亦銳トキ
刃ノ上ニ住居スルト毫モ異ナルヲナシ豈驚愕ノ至リ
ナラスヤ而シテ斯ノ如キノ所置ハ文明ノ風賜ナル歟
否ナ他産勒有世界ナリ誠覺否ナ決シテ然サルナリ
而リ然レモ吾輩ハ爰ニ切望シテ耐ヘサル所アリ何ソ

曲邪ヲ逐フテ
正直ヲ求メヨ

ヤ曰ク今ヨリ相情ヲ以テ洵充シ由テ以テ其德澤ヲ輝
シ而シテ清虛ニ倚テ而カモ社會ヲ德義ノ大海ナリト
致スコソ望マシケレ然レモ我國東洋文明ノ今日ニ方
リ齒牙ノ鼠竄之レ世ニ容ル可ラサル斗流モ瓦礫ノ銚
ガ舉動ニ對シ世人之レ何ヲカ忍バン如何ナレバトテ
世人ハ此レヲ破逐セン歟吾人夙ニ果スヘキハ是レ此
一着ニアリ

批論ノ評定本論終ル

拔論 進歩ノ源ヲ吐論ス

全著述者 中島金之助陳ル

抑々文明ノ進歩トハ如何ナルモノヲ指シテ之ヲ文明
ナリト稱スル歟余之ニ答テ曰ン凡ソ文明タルヤ漠々
タル愛ニ空理ヲ實行スルノ有様之レナリ約言スレハ
空理實踐ノ相ヒ連續セルモノナリ舊說ヲ變シ之ヲ方
今ノ最得說ニ移ル則チ之ナナリ
往日ハ言フ可クシテ行フ可ラスト云ヒシ空理モ終ニ
ハ言フ可ク行フ可キノ說トナリ尙又進テハ空理ヲ實
踐シ實踐シテハ空理ニ移リ空理ニ移リテハ亦コレヲ
實踐スル是ヲコレ文明ノ進歩ト稱スルナリ
文明ハ至大至重ナリ人間万事是ニ向テ道ヲ避ケザル

モノナシ然ルニ文明ノ本旨ハ上下編權アルニ非スヤ
 西洋諸國ノ歴史ヲ繙閱スルニ改革ノ第一着ハ必ス先
 ズ貴族ヲ倒スニ在リシヲ(英佛獨魯埃伊)等近クハ吾日
 本ニ於テモ廢藩置縣等ニ至ル迄士族ハ既ニ其權色ヲ
 失ヒ華族モ亦顔色ナシ此理ヲ究メテ論ズル時ハ文明
 ノ國ニハ君主ヲ奉ス可ラザルガ如シ果シテ然ルヤ答
 テ曰ク此論タルヤ所謂片眼ヲ以テ天下ノ事ヲ窺フノ
 論ナリ文明ノ物タルヤ且ツ重ナル而已ナラス又洪ニ
 シテ且ツ寛ナリ文明ハ至共至寛ナリ豈國君ヲ容ル、
 ノ地位ナカラシヤ國君モ容ルベシ貴族モ置クヘシ何
 ヲ是等ノ名稱ニ拘ハリテ區々ノ疑念ヲ抱クニ足ラン
 ヤ

況テ世ノ政府ハ唯々便利ノ爲メニ設ケタルモノナリ
 國ノ文明ニ便利ナルモノハ政府ノ体裁ハ立君ニテモ
 共和ニテモ其名ヲ問ハスシテ其實ヲ取ルベシ開闢ノ
 時ヨリ今日ニ至ル迄世界ニテ試タル政府ノ体裁ニハ
 立君獨裁アリ立君定律アリ貴族合議アリ庶民合議ア
 レモ唯其体裁ノミヲ見テ何レヲ便ト爲シ何レヲ不便
 ト爲ス可ラス唯一方ニ偏セザルヲ緊要トスル而已立
 君モ不便ナラス共和政治モ良ナラス千八百四十八年
 佛蘭西ノ共和政治ハ公平ノ名アレモ其實ハ慘刻コレ
 名狀スヘカラザルニ非スヤ壞地利ノ政治ハ寛大ノ實
 ナリト雖モ亞米利加ノ合衆政治ハ支那ノ政府ヨリモ
 良カラント云フモ墨是哥國ノ共和政治ハ英國立君ノ

政ニ及バザルヲ遠シ故ニ壤地利英國ノ政ヲ善トスル
 モコレガ爲メニ支那ノ風ヲ慕フ可ラス亞米利加ノ合
 衆政治ヲ慨ブモ佛蘭西墨是哥ノ例ニ倒ラ可ラス政ハ
 其實ニ就テ其整効ヲ見ル可シ其名ノミヲ聞テコレヲ
 輕々信ス可ラス政府ノ体裁ハ必ラスシモ一樣ナル可
 ラザルガ故ニ其務ムベキ政治家ハ一概ニ權謀ナル海
 外ノ政書ニ呑マル、勿レ必ラスシモ虛飾政治家ノ傳
 ヲ做フ勿レ

嗚々夫レ我國ハ皇統連綿タルヲ自負スルモノ乎
 皇統ヲシテ連綿タラシムルハ難キニアラズ盡ン
 プ北條足利ノ如キ不忠者ニテモ尙能之ヲ連綿タ
 ラシメタリ中古ニテ政權ヲ失ヒ又ハ血統順逆ア

リシト雖ヒ金匱無缺ノ日本内ニテ行バレタル事
 ナレバコソ今日ニ在テ意氣揚々タルベケン誰カ
 時勢ノ沿革ニ由テ共主ノ意見ヲ奮バサル可ラス
 茲ニ於テ聊カ著者ガ寸思ヲ表シテス末書スル由
 縁ナリ

大尾

著者一言茲ニ贅ス本項第四章及ヒ九章ハ殆ト讀者ニ
満足ヲ供セントセシモ既ニ我國ニハ出版條例ノ嚴律
アリ蓋ゾ余ハ之ヲ超越スルヲ憂ヒ依テ右二章ハ草稿
中最モ長文ナレトモ大ニ正スル所アリ故ニ遺憾ナガラ
其短文ヲ痕示ス續者幸ニ之ヲ諒セヨ

明治廿四年 月 日 著者 中島金之助 敬白

明治廿四年九月十五日印刷
明治廿四年九月二十日出版



定價金參拾錢

著作
兼發行人

長野縣土族
中島金之助



北佐久郡小諸町
千七拾七番地

印刷者 片山捨松

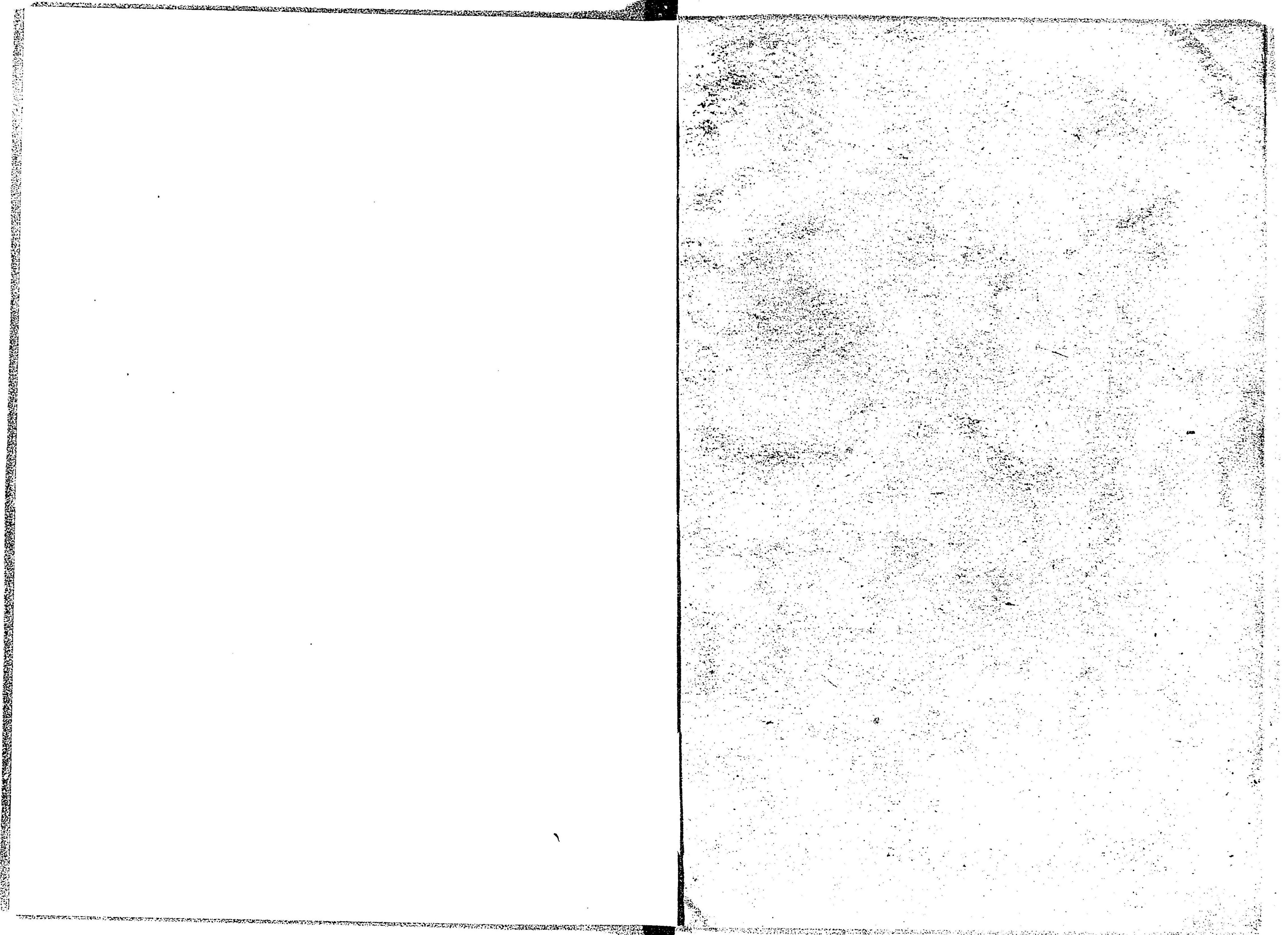
長野縣土族

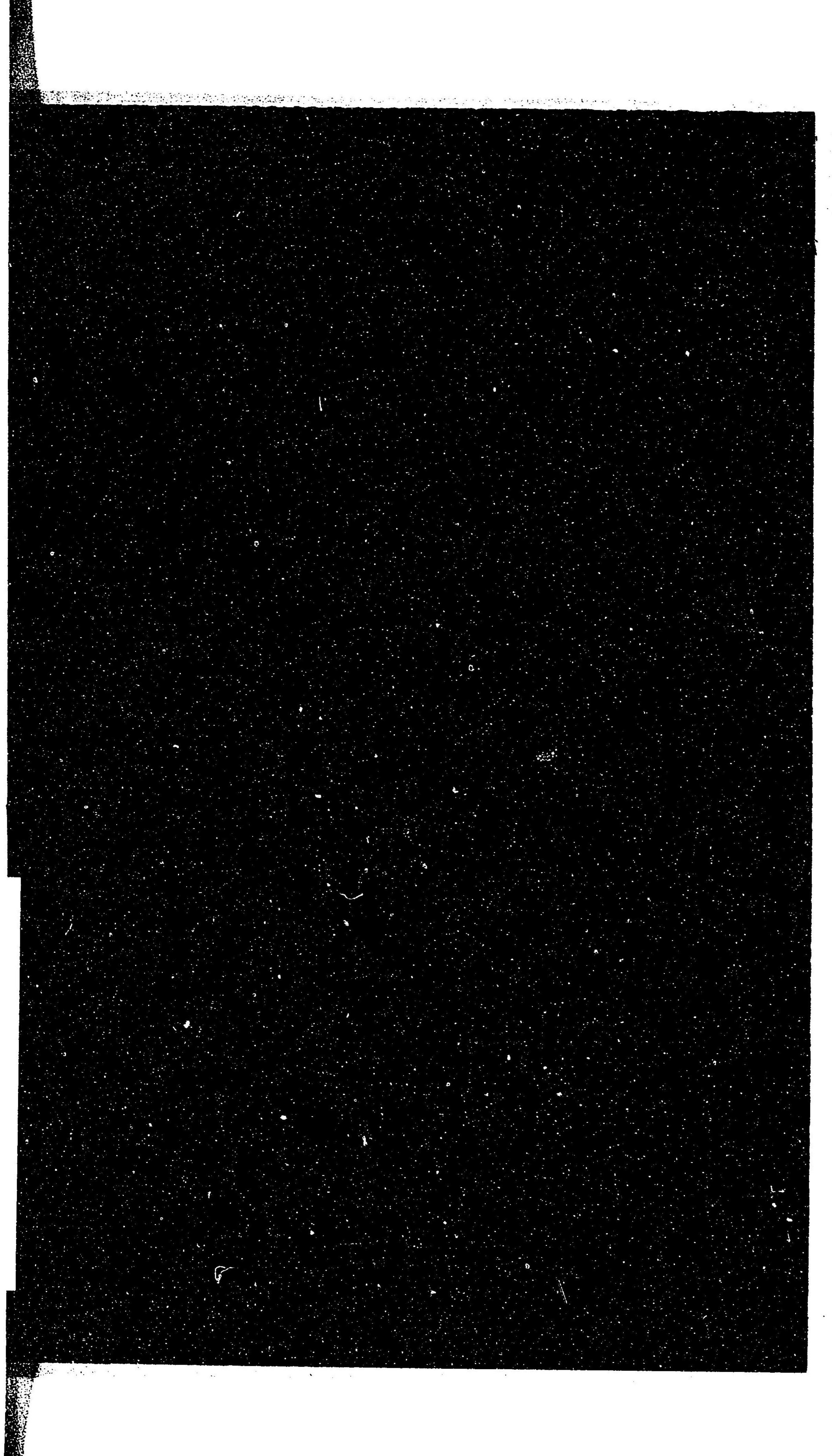
北佐久郡小諸町
三百壹番地

印刷所 潔枝舍

北佐久郡小諸町
三百壹番地

賣捌所 各國書林





特46

134

井蛙之智識

国立国会図書館

039636-000-0

特46-134

井蛙之智識

中島 金之助 / 著

M24.9

BDA-0214

